

「昔から学ぶ水の大切さ」

愛媛県立松山西中等教育学校 三年

宮内 埜乃日 みやうち ののか

「ダムの水が半分しかないよ!」と私が中学一年生くらいの時、親にそう言った。毎日見ている天気予報のテレビチャンネルで、ダムの貯水率が流れてきたからだ。五十五パーセントという数字を初めて見たため、このまま渇水するのではないかと思った。だが、親から帰ってきた反応は意外なものだった。「毎日節水はしてるよ。あの時よりは大丈夫じゃない?」そう言われたとき何を言っているのか理解できなかった。なんでそんなにも呑気なのだろう。詳しく聞くと昔、大渇水が起きたと教えてくれた。だから、みんなあんな目には遭いたくないため普段から節水するんだと言われた。その後、本当に大丈夫なのかと心配になりダムの貯水率を度々見ていた。それから、貯水率は減ることなく、次第に雨が降り、貯水率はみるみる回復していった。私は親が言っていた「あの時」が気になり調べてみることにした。

平成六年、平成の空梅雨で大渇水したそうだ。百年に一度の大渇水として、二か月時間断水され、一日五時間しか水が使えなかったのだ。給水車が街を回り、バケツを持って列ができていて、水を汲んで家まで持って帰ること。お年寄りなどのために、バケツリレーが行われていたこと。水泳の授業は中断され、トイレなどバケツの水で流すこと。調べてみるとその生活は想像を絶するほど大変なものであった。その大渇水を教訓にし愛媛県では、渇水対策に取り組んでいる。例えば、取水制限。上水道や、農業用水を段階的に制限し、私たちが生活になるべく支障がないようにしている。私たちが安心して日々水を利用してきているのは、愛媛県の取り組みのおかげだと分かった。今までの様々な経験から学んで、県民も節水に取り組んでいるのだと調べて思った。愛媛県だけでなく、日本中の都道府県がこうした情報を共有しながら

水資源を守っている。昔からの学びが水の大切さを私たちに気付かせてくれるのだ。

それから、私はさらに節水を心掛けるようになった。天気予報を見てダムの貯水率をチェックすることが習慣になってきた。学校で手を洗うとき、水を流しっぱなしにしない。家でお風呂に入るとき、シャワーをなるべく使わない。油は処理する際に水が大量に使われているので、そのまま流さない。など、日ごろから水の使い方について考えるようになった。家族にもこうやって節水しようと提案するようになった。節水すると親に水道代が減ったと言われすっかり節水できていたと実感できた。

中学二年の社会の授業。愛媛県は降水量が少ない「瀬戸内海式気候」だと知った。そこで調べたことと繋がった。降水量が少ない気候に位置しているからこそ、ほかの地域より渇水が起こる可能性が高いのだ。そして、渇水はこれからの未来にも起こり得る出来事だと。授業で初めて知ったことがあった。例えば、ため池を設置していることだ。ため池も昔から大切にされているものであり、農業用水の助けになっていたそうだ。今でも整備され、私の家の近くにもいくつかある。

私は過去の災害から学び、同じことを繰り返さないよう、今の時代にしっかり伝えていくことが大切だと思った。私もさらに調べて県内だけでなく、国、世界と幅広い水問題について興味を深めていきたい。そして、私が調べて知ったことを友達に伝えたい。水がいつもあるのは、当たり前ではないのだから。